

渋谷の砦

舞台建築とともに作られる都市空間

前本哲志

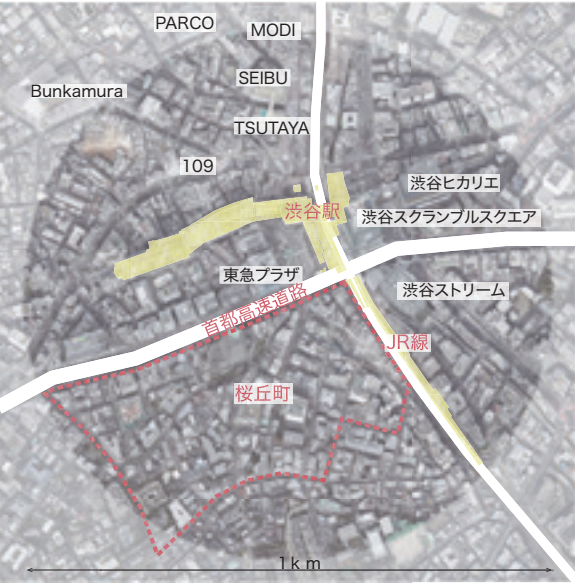


SITE 渋谷区桜丘町

分断された町 渋谷駅の南西側に隣接する桜丘町を設計対象とする。玉川通りとその上空を走る首都高速道路と JR 鉄道路線によって成長の続く道玄坂と宮益坂とは分断されている。桜丘町は渋谷駅に隣接しているが住宅も数多く含むエリアとなっている。現在、渋谷駅前の大規模再開発事業の一環として駅に近い街区に超構想ビルの建設が進行中である。

段階的なプロジェクト 一度に全ての設計を行うのではなく、時間の経過とともに敷地の範囲を少しずつ増やしていく。phase1 では桜丘町の中央に位置する複合文化施設とオフィスを合わせた敷地で設計を行う。その後 phase2 に移行し、既存建物や道路に対して複数の提案を行う。

敷地周辺の様子



Research

自然地形の残る渋谷 渋谷を新宿や池袋、丸の内と比較すると、駅周辺の自然地形の有無が特徴的である。渋谷では駅から出て、都市の中を歩いていく中で坂を上り下りする、高台から遠くが見えるなどの都市の空間体験は渋谷らしさの一つである。

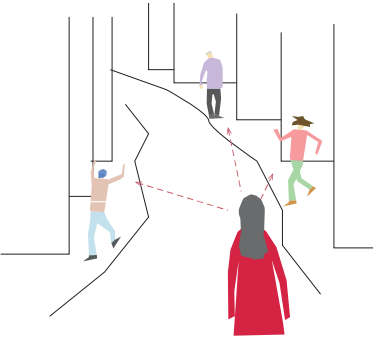
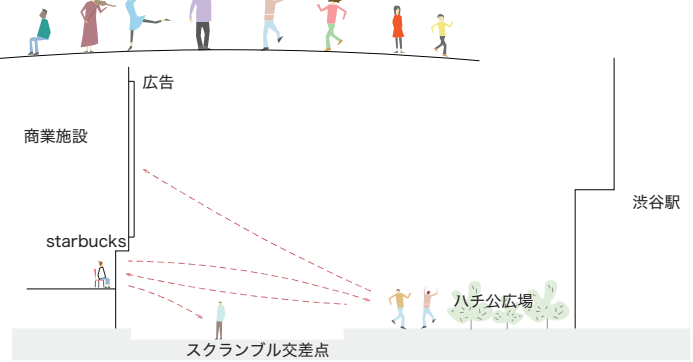


自然地形ともう一つの地形 それぞれの建物を作る屋上地形は自然地形に対して、渋谷駅に向かうにつれて高くなってゆく。特に桜丘町は駅方向に降っていく自然地形と登っていく屋上地形の関係性が顕著に見られる。



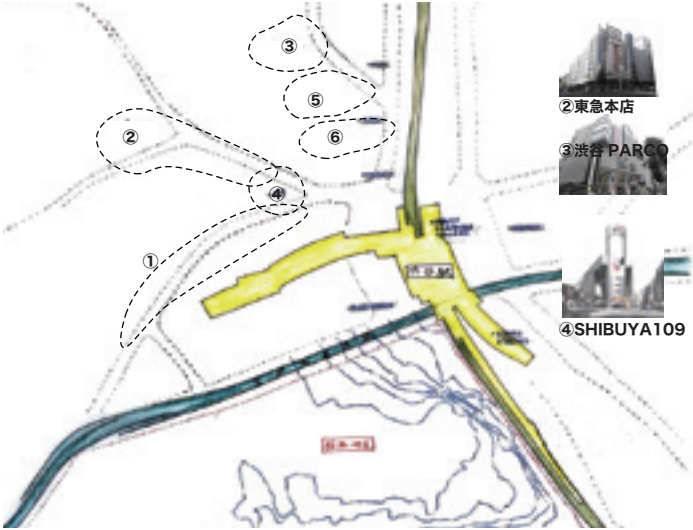
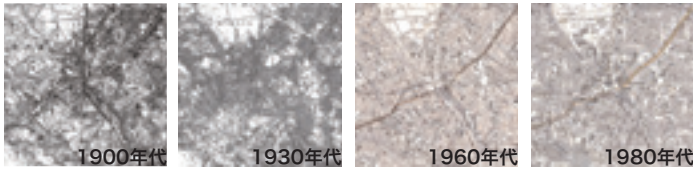
渋谷の定義 あたらしい流行や価値観が常に生まれ続ける場所生み出してきた。そしてそれらは次に生まれてくる流行によって更新されてきた。渋谷といえばこれだと言えるものが多すぎて断定できないのは、渋谷が常にあたらしい価値観を作り出し続けている証拠である。これこそが渋谷を表す文化であり、継承するべきものであると考える。

渋谷という都市の舞台 それぞれの中心にさまざまな格好をした人が集まる



奇抜な格好をした人を見る→真似る・学ぶ 渋谷という舞台にはさまざまな衣装をまとった人々が集まっている。ギャル文化やファッションの流行は、渋谷に来た人が他の格好をした人を見ながら学び、次に渋谷にくるときは彼らを真似るという連鎖反応で作られている。渋谷はいろんな人が居て、それぞれが自由な格好をしている場所で、そこからあたらしい価値観と流行が生まれているという渋谷は現代の無縁所のような一面があると感じられる。

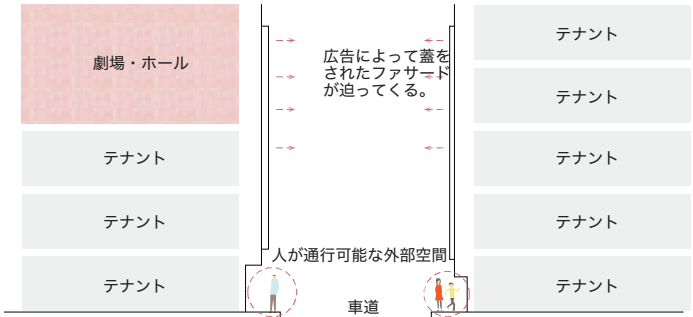
渋谷の中心は移り変わってきた 渋谷の成長について注目すると、渋谷の中心は常に駅から離れた場所にあり、移り変わってきたことが分かる。道玄坂から始まり、東急本店のオープンに伴って東急本店通り、渋谷PARCOのオープンにに合わせて公園通りへと渋谷の中心が移っていった。新しい中心ができることで駅からそこまでの道が成長してきたのである。渋谷の成長は駅を中心としてスプロールしてきたのではなく、多中心的であった。



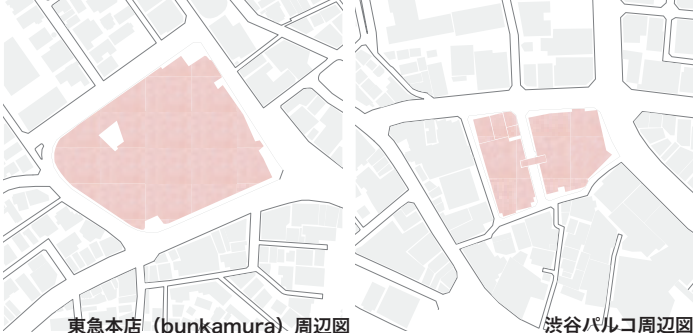
渋谷の建物 スクランブル交差点からみえる、さまざまな広告物の裏側にいる建物一つ一つは全て均質な箱型のビルディングタイプである。建物はテナントを最大限収容することと広告物を掲示する役割しかなく、人々の抛り所となる形態をしている様にはなっていない。



建物の外壁によって追いやられた外部空間 渋谷の、あたらしい価値観や流行を作り出す為に必要な環境の一つである外部空間は渋谷の成長とともに徐々に削り取られている。なんでもあるように思える渋谷だが目的がないと、道が狭く忙しく行き交う人々の中にはいづらく感じてしまう。渋谷の劇場やホールも商業と同化することで、箱型の建物の中に収まっている状況である。渋谷の外部空間が多様になれば、渋谷での個人のアクティビティなども含めて渋谷の舞台の演者の幅が広がり、あたらしい価値観が生まれてくる環境を作ることができるのではないか。



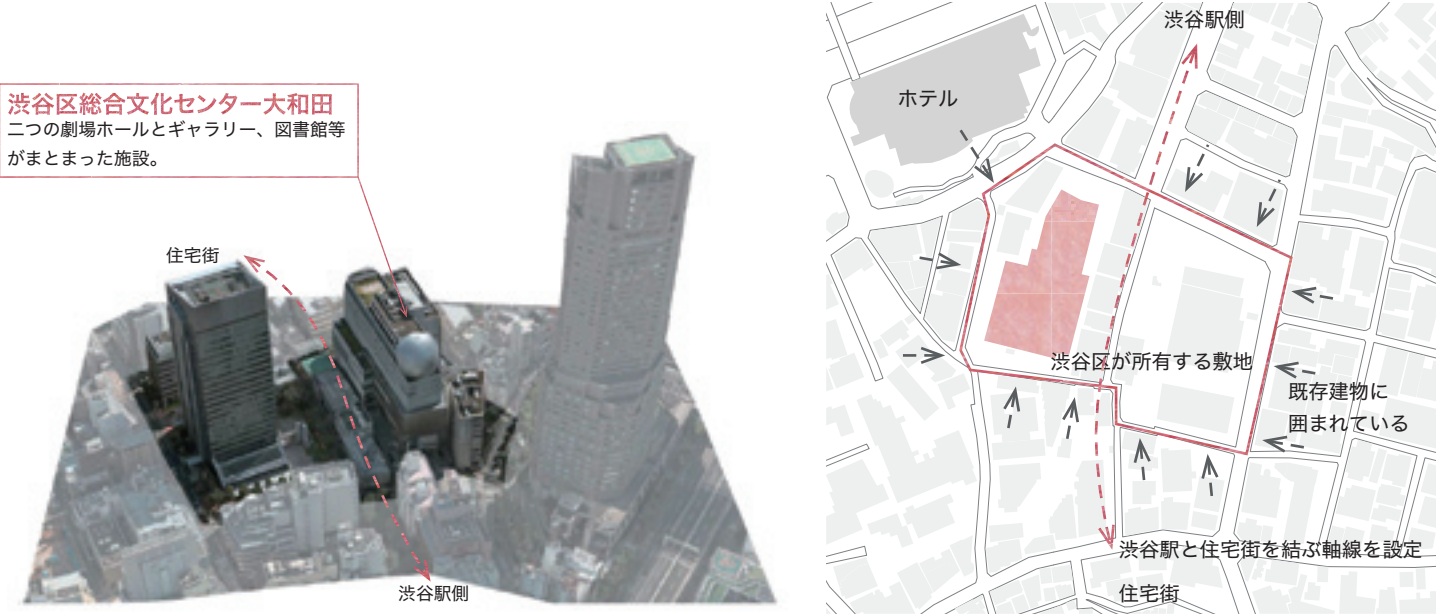
営業時間外には閉鎖される劇場 渋谷にはたくさんの劇場がある。東急本店や渋谷PARCOにはそれぞれ劇場ホールが含まれているが、商業施設と連動する為、閉じられた大空間が渋谷に多く分布している事になる。



Proposal

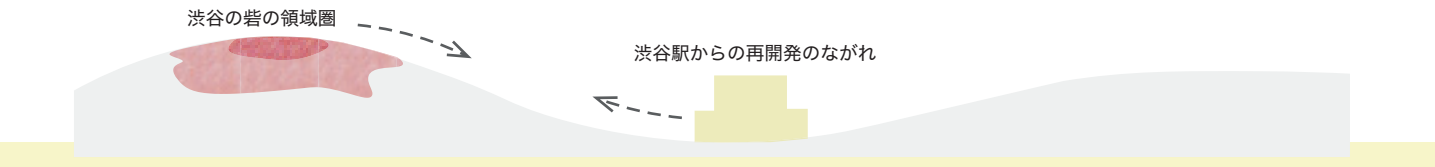
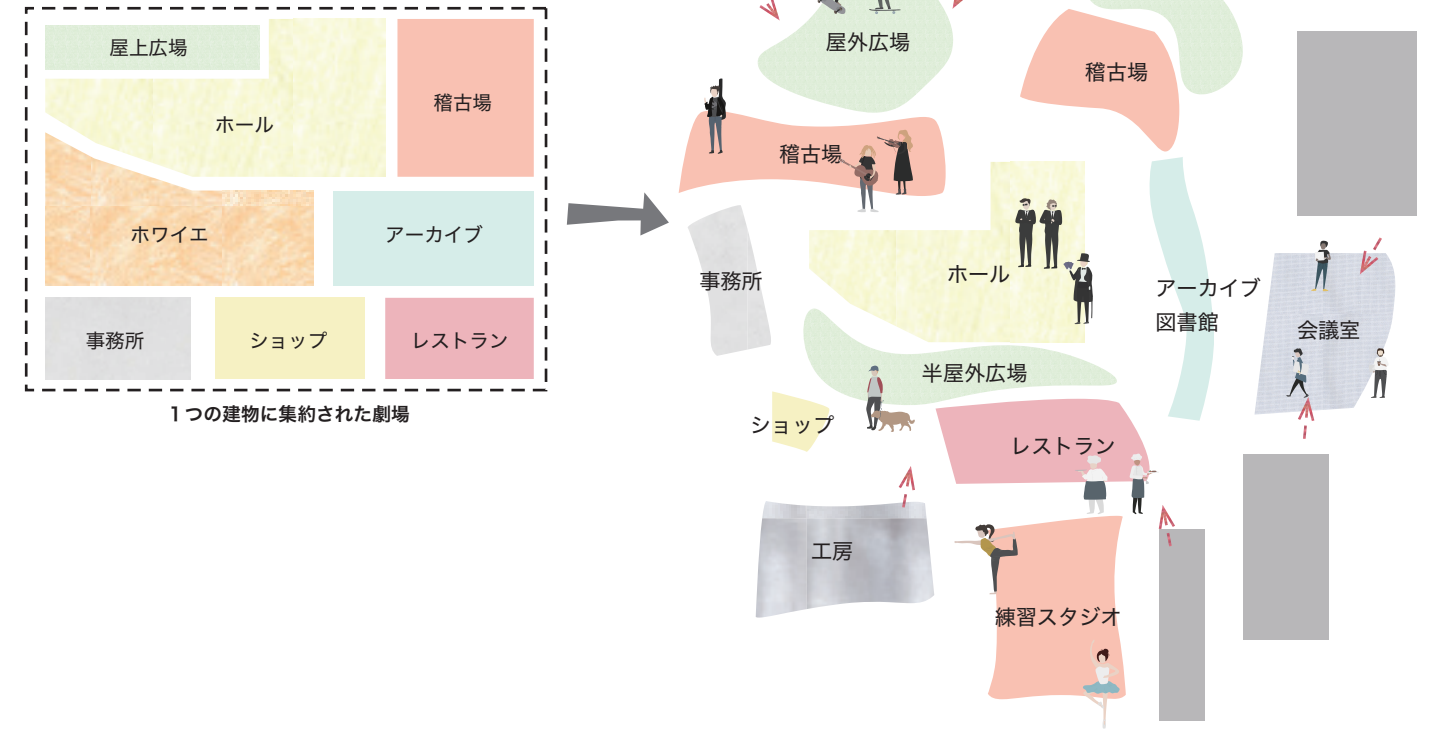
桜丘町のビジョンー渋谷の砦 駅側から進んでいく桜丘町の再開発計画に対するカウンター案として、このプロジェクトを提案する。これまでの渋谷がサブカルチャーを中心に次々とあたらしい価値観を生み出してきた様に、桜丘町では都市での個人のふるまいや活動を中心に価値観の更新をうながすような町の作り方を考える。そのために、人の容姿を見るだけでなく何か活動をしている人を見ることができ環境を計画し、それが町全体で連鎖していくことを目指す。桜丘町を渋谷らしい町であり続けさせるための砦のように都市空間を展開していき駅前から広がる再開発のながれに立ち向かう。

Phase1桜丘町の丘の上に渋谷の次なる中心をつくる これまでの渋谷の中心の作り方を踏襲し、桜丘町の丘の上に新たな中心をつくる。敷地は渋谷区が管理する複合文化施設「渋谷区総合文化センター大和田」が建っている場所とする。また、隣のオフィスビルが建つ敷地も統合して計画する。

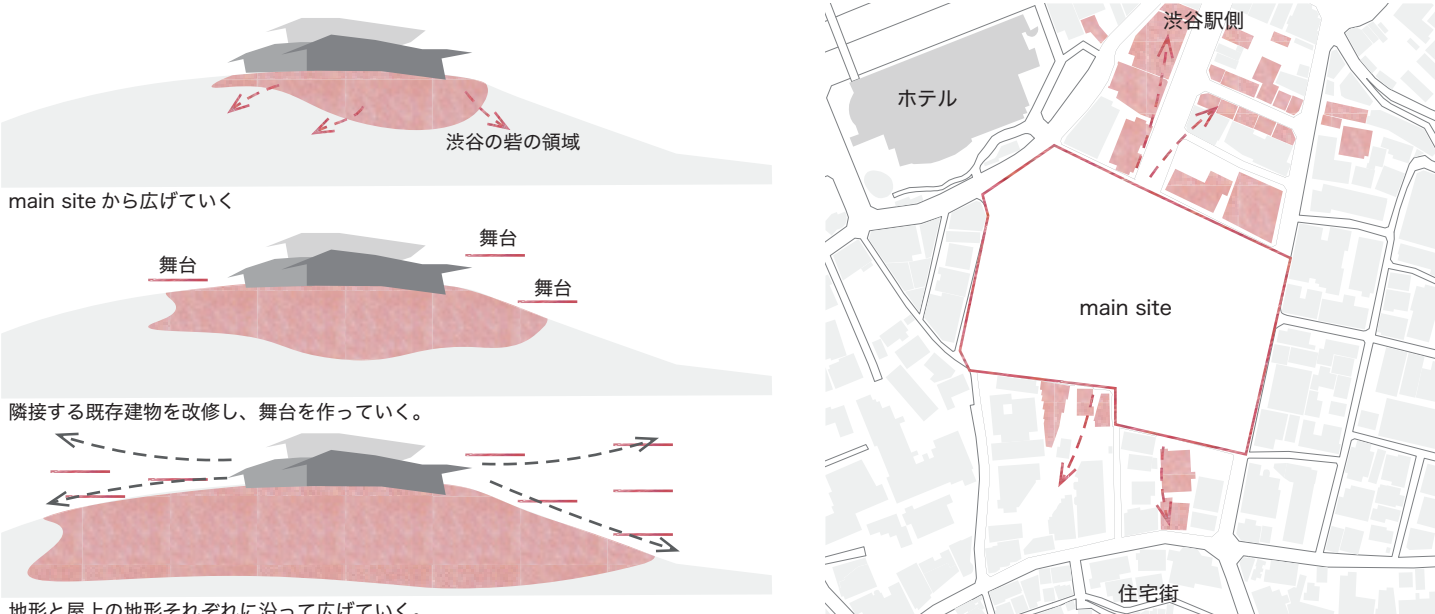


プログラムー劇場 副次的機能のヒエラルキーを向上させる もともと劇場に備っていた機能や空間を周辺の環境に対してひらくように計画する。これまでの劇場に訪れた人にしか利用されていなかった場所を、劇場以外の目的で利用することができるようになることで、一つの領域の中に別々の目的をもった人々が混在する空間をつくる。

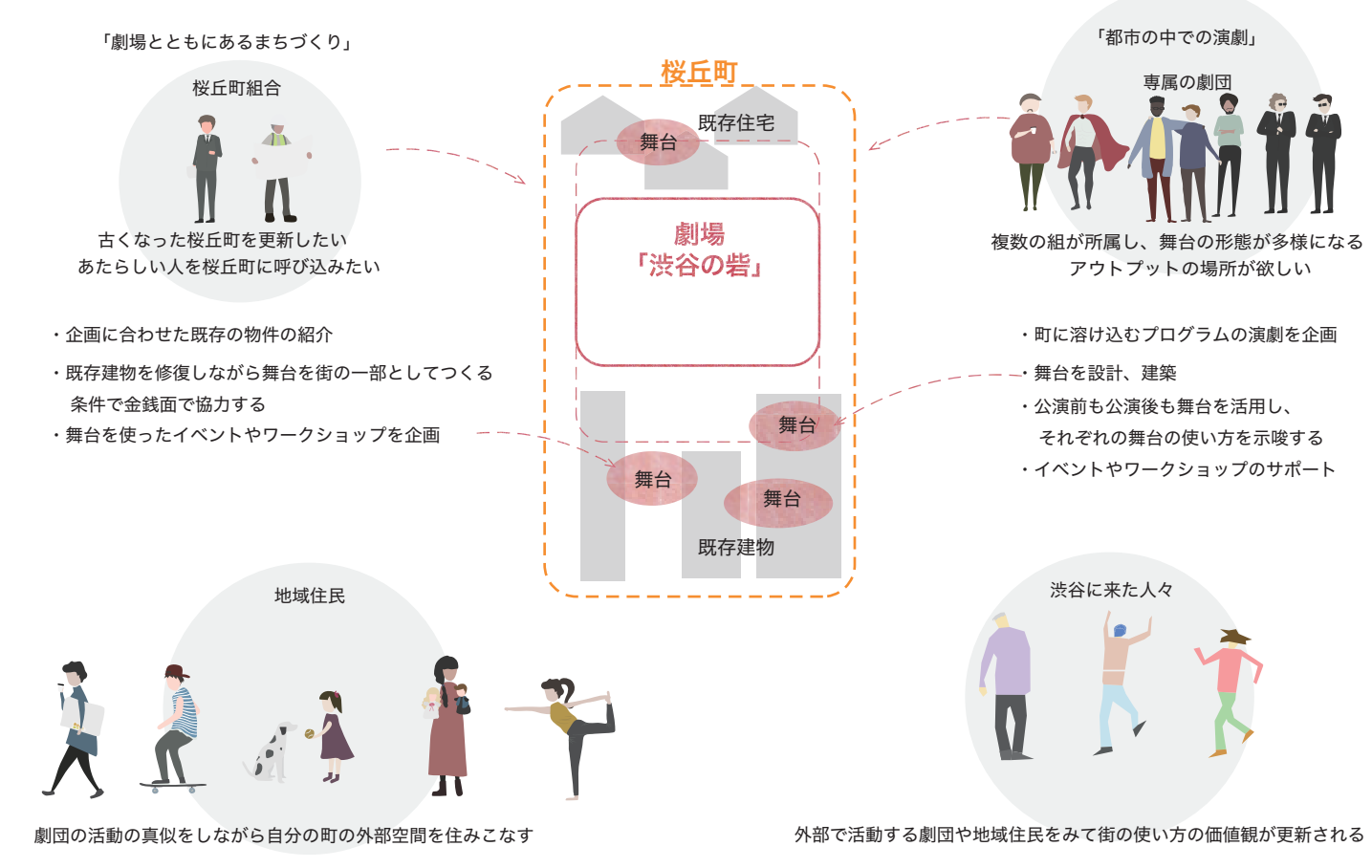
周りの建物との関係性を持たない立ち方。セキュリティラインが全体を覆っていることで、劇場の運営と運動して他の諸機能も開かれたり閉じられたりする。



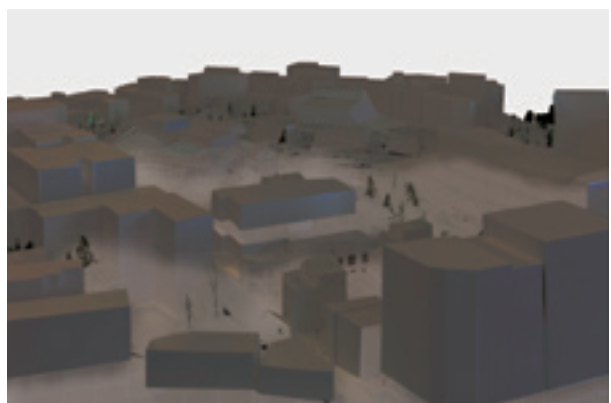
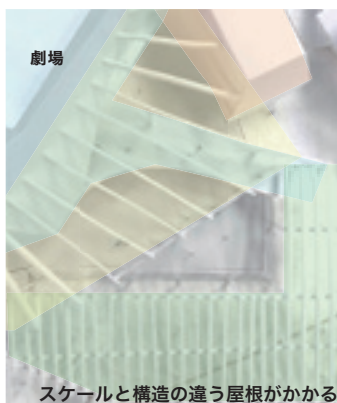
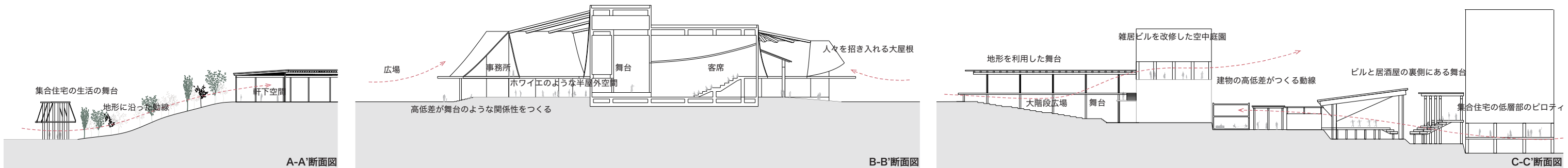
Phase2桜丘町の全体に舞台建築を計画していく Phase1で設定した渋谷駅と住宅街を結ぶ軸線に沿う様にして、小規模な舞台建築の設計を行う。設計する舞台は全てが外部空間で、劇団が使用しない時には町のオープンスペースとして地域住民や桜丘町を訪れた人々の活動を受け入れる。



運営スキーム 劇場「渋谷の砦」は古くなった桜丘町を更新したい組合と、渋谷を拠点に活動する複数の組が所属する劇団が協働関係を取りながら運営していく。組合は劇場とともにあるまちづくりを目指し、劇団は都市の中での演劇に挑戦していく。舞台と演劇のある桜丘町では、団員達の舞台でのふるまいを地域住民が真似しながら都市を住みこなしていく。また、渋谷を訪れた人々がその風景を見て町の外部空間でのふるまいに対する価値観が更新されていくことを期待する。

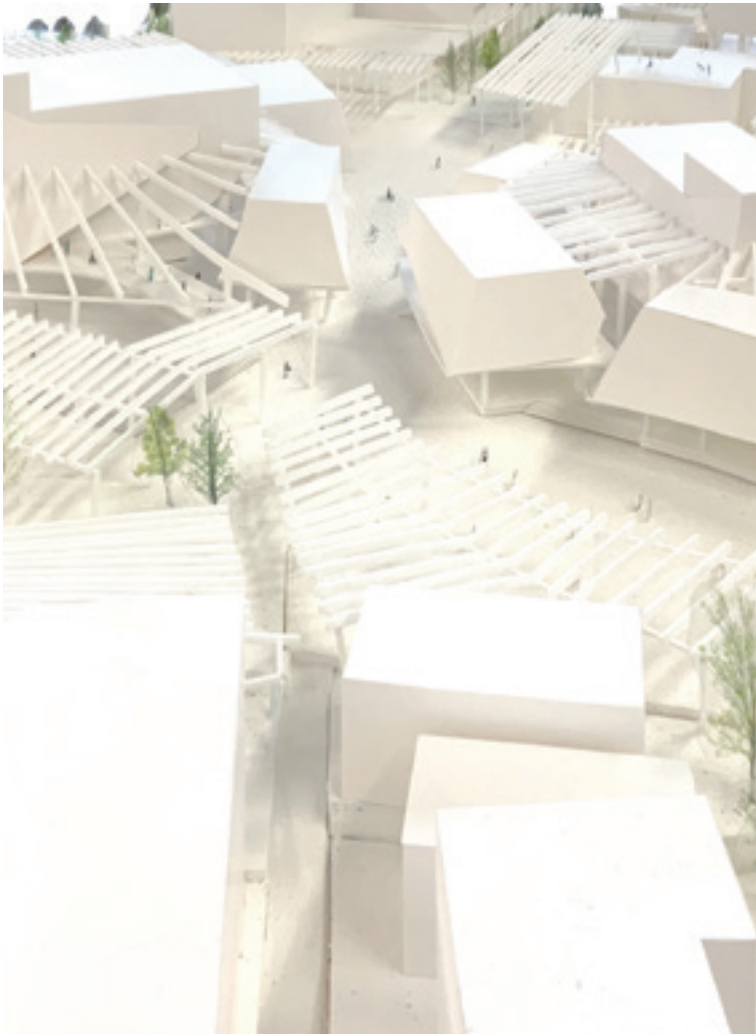
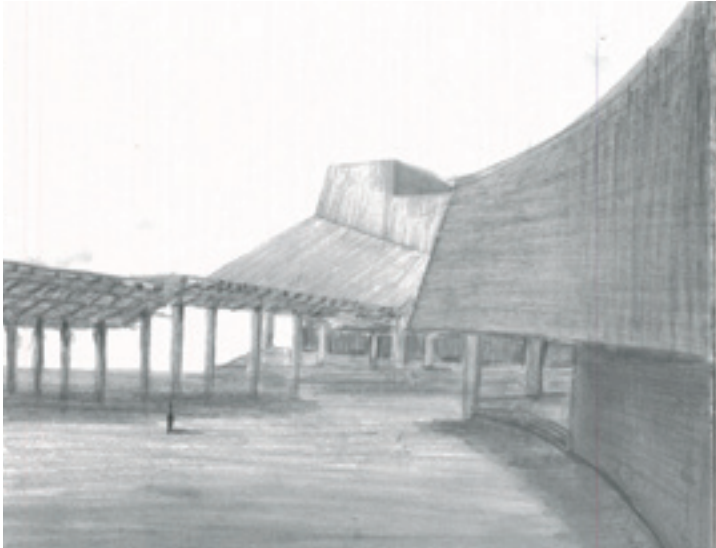
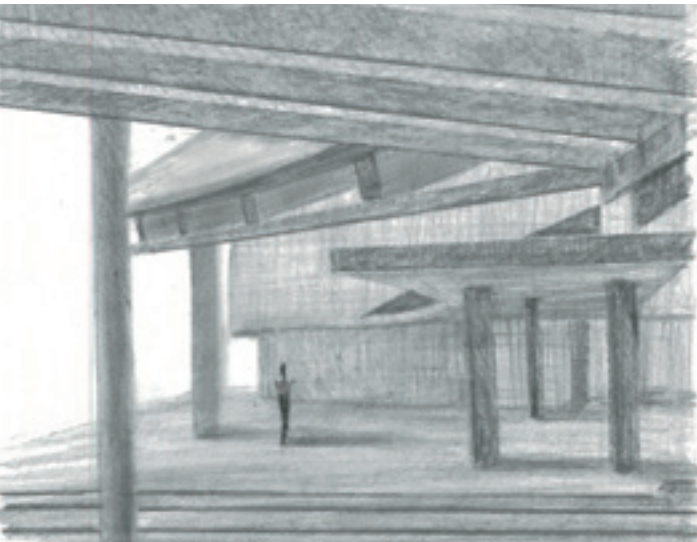
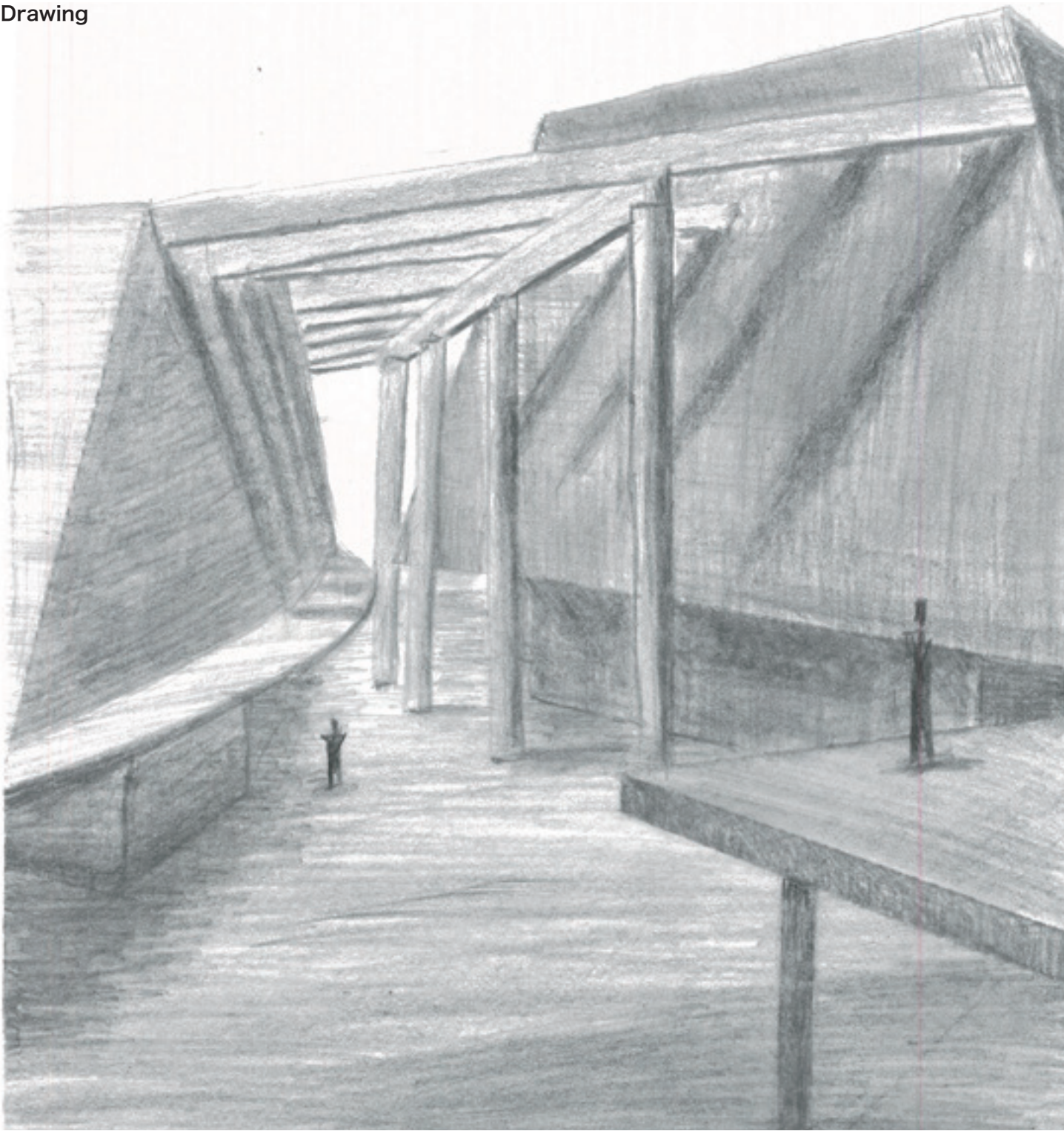


Plan



夜になると渋谷とは思えなくなるほど
暗くなる桜丘町。屋外舞台の照明で街
の通りを照らす。いつも視認できる屋
外舞台は非常時に非難する都市の余白
とも認識され、都市防災に貢献する。

Drawing



模型写真
左：渋谷駅と住宅街を結ぶ軸線を見る。人々の動線に対して活動を引き込むように様々なスケールの軒下空間が設けられている。
右上：住宅街の道路から見る。中央の劇場から徐々にボリュームを落として、人の目線の近くまで迫ってくる屋根。
右中：渋谷駅側の道路から見る。大階段ホールとして計画された屋外舞台は劇場に向かっていく際の大きな都市のホワイエとなる。
右下：桜並木をみる。耐震工事を兼ねたフレームは、並木通りのハレの舞台のためのストラクチャにもなる。

Comments from Classmates

池谷さんの卒制では街の中に潜むというかへばりつくような設計だったけど、こちらは象徴的な形の建築が丘の上に構えていて、これはこれで、とも思う。ただ、あの綺麗な模型に半野外空間以外はほとんど表現されていなかったのが実に勿体無いと思った。

高橋健

渋谷を捉えるってことはすごく大変なことだと思うし、対処しきれずに終盤は息切れしていたようなイメージ（笑）そう思うとあまり御託を並べるよりもモニュメンタルな建築を突き詰めた方が良かったような気がした。あと、渋谷の定義のところが色々あるけど…（笑）でも全体的にやっぱさーしーというか、まとめるのとか初めから終わりまでの提案の一貫性みたいなのは毎回思うけどすごい。あとは分析の深さというんな視点からの考察があれば！って感じなのでは。悪口ばっかでごめん（笑）

上田成夢

敷地やテーマで悩んでいた時期が長く、腹を括って決めたときから建築の形がパツと出てきた印象だったけれど、そこで出てきた形が綺麗でした。劇場というプログラムが無くなっても、建築により街は変わっていくのではないかと思います。卒制の終盤から、自身のテーマが曖昧というテーマで悩んでいた印象だけれど、さーしーの作る空間にはセンスやこだわりを感じるから、「俺はこれが作りたいんだ」というゴリ押しでもいいのでは ...？ YGSA でも頑張ろう！

藤澤太郎

さーしーは家でやる派だったので、途中経過を全然知らない状態でした。できたものを見ると、元々の敷地のつまらなそうな公開空地や巨大ボリュームからの変化や、様々なスケールや構造の軒空間や、通り道はいい意味で渋谷らしくなく新鮮でいいなと思いました。やはり器用というか、設計の力があるなーと感じました。途中で、渋谷で仮設的な劇場をつくる的なことを聞いていたので、それも見てみたかったなとか思いつつ、万平からの変化や渋谷でやるにあたってのステップアップとか色々また話したい。

上山信

さーしーとは高専から建築学生生活を共にした仲で、気が付けば約8年も共に建築を学んできた。そうしたこともあって、さーしーの考える建築をそれ自体で素直に批評できないという点をまずは理解してほしい。さーしーのつくる建築や図面はどれも綺麗でかっよく、8年でそれめかなり洗練されてきたと思う。しかしその反面、趣向の変化が天井を打ち始めているようにも感じる。そうしこともあり、ここ2年間の課題や卒制での建築はいろいろと過剰に感じた。さーしーの持つボキャブラリーの豊富さやそれを巧みに用いる技術の高さは素直に尊敬している。そこで、これからの2年ではもう少し丹誠で課題に向き合ってはどうかと思う。自分のしたいことに本当に必要なものだけを拾い上げ、かたちで表現することでさーしーらしく振り切れるのではないかと考えている。

宮本皓章